

県北部豪雨災害から3年・・・

激特事業も本格化

虎居城跡も掘削始まる

平成18年7月の鹿児島県北部豪雨災害から3年が経過し、町内ではいたるところで災害復旧事業が始まり、少しずつ復興の兆しが見えてきています。

激特事業のひとつである、しごめ推込分水路建設工事を前に、虎居城跡の一般公開も終わり、掘削工事や宮都大橋架け替えに伴う仮橋工事も始まり、いよいよ本格化を迎えます。

一方、被災した虎居町商店街でも、後継者による話し合い活動や、空き店舗を活用した薩摩中央高校によるアンテナショップが行われ、少しずつ明るい話題も聞こえてきます。

虎居町名店街



②盛況だった、薩摩中央高校「にっこ広場」



①「とらい通り会だより」を作成する話し合いの様子



③宮都大橋架け替えに伴う仮橋工事

①「とらい通り会だより」を発行するために、それぞれの仕事が終わってから集まり、編集作業に取り組む、若手後継者の皆さん。

「お互いの店の批評をし、自分で気づかない魅力を引き出したい」と、話し合いは続きます。

②虎居町商店街の空店舗を利用した、薩摩中央高校のアンテナショップ「にっこ広場」は、4月15日にオープンし、毎週水曜日の午後2時から4時まで6月いっぱい営業しました。同校の生徒が作った、加工品、苗物、花鉢などを販売し、開店前になると行列ができるほど盛況でした。

年内は9月に再開し、11月まで営業する予定です。

③宮都大橋架け替えに伴う仮橋工事もあり、大型のクレーンも設置されました。橋を通行する人の中には、時折足を止めて現場をのぞきこんだりする人もいました。